


Rd. 1 AUTO POLIS

POTENZAホイール、開幕戦を制す。

POTENZAホイール装着選手がワンツーフィニッシュを達成し、圧倒的な強さと高い性能を証明！

TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 2026 の開幕戦が、4月5日に大分県・オートポリスで開催されました。

予選・決勝を日曜日に行うワンデー開催となった今大会。午前中に行われた予選では、昨シーズンのチャンピオン #1 堤優威選手 (POTENZA RW007 を装着) が2分06秒196をマークして2番グリッドを獲得しました。続いて、#121 蒲生尚弥選手 (POTENZA SW010) が3番グリッドを獲得。同じく POTENZA SW010 を選択した #2 清水英志郎選手と #160 吉田広樹選手 (POTENZA RW007) も、それぞれ5番グリッド、7番グリッドを獲得し、POTENZA ホイールユーザーが予選上位に名を連ねました。

10周で争われた午後の決勝では、堤選手がポールポジションの菅波選手に対して、スタート直後にアウト側からオーバーテイクを仕掛けると、その隙を突いて蒲生選手がイン側からオーバーテイク。1コーナーでトップに躍り出た蒲生選手に、堤選手が続き、POTENZA ホイールを装着する2台がオープニングラップからワン・ツー体制を築きました。

後半にかけては、POTENZA ホイールユーザー同士によるトップ争いが期待されましたが、車両火災を伴うアクシデントが発生しセーフティカー (SC) が導入されると、レースはそのまま SC チェッカーとなりました。この結果、蒲生選手が見事な逆転勝利で 昨年の鈴鹿大会以来となる優勝を飾り、堤選手も2位表彰台を獲得してタイトル防衛に向けて好スタートを切りました。

また、7番グリッドからスタートした吉田選手は、1つポジションを上げて6位でチェッカー。一方、序盤に4番手まで浮上した清水選手は、表彰台圏内をうかがう走りを見せていましたが、アクシデントにより順位を落とし、惜しくも13位でフィニッシュとなりました。

予選・決勝を通して、POTENZA ホイールユーザーたちが、RW007・SW010 それぞれの特長を活かした走り、その性能の高さを証明した結果となりました。

2025 シーズンは、プロフェッショナル、クラブマンの両シリーズで POTENZA ホイール装着ドライバーがタイトルを獲得しました。

DRIVER'S COMMENTS



#121 蒲生尚弥選手「SW010 を含めたパッケージの仕上がりが良かった」

オートポリス特有のタイヤに厳しい路面特性を考慮して、タイヤへの負担が比較的小さいことによるロングでのアドバンテージを狙って、POTENZA SW010 を選択しました。予選から良いタイムを出すことができましたし、決勝でも狙い通りの良いペースで走ることができました。今回はホイールの選択を含め、クルマの仕上がりがとても良かったですね。本当にチームの皆さんのおかげです。



#1 堤優威選手「POTENZA ホイールの手応えを次戦へ」

予選では前に出たかったので、今回は POTENZA RE-10D の一発の速さをより引き出しやすい POTENZA RW007 を選択しました。狙い通り、予選では好位置につくことができましたし、決勝でもスタートで菅波選手に昨年のオートポリスでの借りを返すことができましたと思います。ただ、蒲生選手のスタートが良かったですね。決勝のペースについても、SW010 を選択した蒲生選手とは多少の差があったと思います。次戦のスポーツランド SUGO でも、それぞれのホイールの特性を見極めながら戦っていききたいと思います。